

体験談 1 -

内観による断スロット・断ギャンブル

T.A.

(札幌GF会員 20代男性)

ギャンブルを始めたのは15~16歳の頃です。友人から「簡単に儲けるから、やってみろよ」と言われたのが始めでした。私は小学生の頃からお金の使い方が荒く、お正月のお年玉の4~5万円を、一週間で全部使ってしまう程でした。そんな私にとって『短時間でしかも簡単に儲けられる』というのは、とても魅力的なものでした。

パチスロに行き初めの頃は高校生だったため、学校が休みのときに行きました。勝っている時点ですぐに止め、負けたとしても深追いしませんでした。その頃は結構勝っていたため、色々な物を買ったり、友達と毎晩出歩くなどして浪費していました。そしてお金を稼ぐために「またスロットに行く」の繰り返しでした。ろくに勉強もせず、貯金もせずの毎日でした。今になると「無意味な時間を過ごしていたんだなあ」とつくづく思います。高校卒業後もスロットは止められず、結局パチンコ屋に就職しました。その選択が人生を大きく狂わせました。

社会人になり、実家を出て彼女と同棲を始めました。最初の頃は何不自由なく普通に暮らしていました。次第にスロットに足を運ぶ回数が増え、負け続けた時に生活費に手を付けてしまいました。そうして親から生活費を借りたりしていると、案の定、彼女との喧嘩も多くなり、溝も深くなり…結局、彼女とは別れて実家に帰ることになりました。それからは坂を転げ落ちるように最悪の人生でした。勤めていた会社も仕事に身が入らなくなり、体を壊し、新しい彼女が出来ても食い違いが多く、会社を辞めました。それから仕事を探しても、新しい職場で上手くやれるか?と不安ばかりが先行し、いつの間にか仕事が出来ない状態になっていました。そうになるとやっぱり頼るところがスロットしかなくなり、毎晩夜遅くまでスロット三昧の日々でした。勝ってはお金を使い、負けては親に生活費を借りての毎日でした。借りたお金も返すことを知らず、毎日のように遊んで暮らしていました。たまに仕事をして、スロットの方が稼げる、スロットをしていないとなんだか不安などの気持ちから半年以上勤めることが出来ませんでした。20歳半ばから半年くらいスロットを止めていた時期もありましたが、転職した営業の仕事仲間とスロットに行ったのを機に、ほぼ毎日のようにスロットに行き、夜遊んでから帰宅するのが日常茶飯時になりました。生活のリズムが崩れ、仕事も辞め、彼女とも別れました。そして、また同じことの繰り返しです。

22歳の時、友人の紹介のアルバイト先で新しい彼女と出逢いました。『よし、今度こそ、同じ過ちをしない』と心に誓いました。でも一ヶ月も経たずに、またスロットをやり始めてしまいました。半年間で150万円位負けた時、親の貯金を全部スロットに注ぎ込みました。それまでそんな経験がなかったので、どうしていいのか分からなくなりました。それからは地獄でした。仕事は続かず、スロットは勝ったり負けたり…勝った時はまた遊んで…生活のことなど全く考えられませんでした。半ば人生を諦めることがあり、もう気が狂ってしまい人を殺しそうになったこともありました。

こんな地獄のような生活に耐えながら、一年半経って、札幌太田病院に来ることが出来ました。先生には「ギャンブル依存症」と診断され「即、入院が必要です」と言われました。私自身、入院するつもりがなかったので、「入院はしない」と言い暴れたので、医療保護入院となりました。

今でも、母が「入院させて下さい」と言った時の表情は忘れられません。その時はもう気が動転して自分でも何が何だか分かりませんでした。以前から衝動的に暴れることがあったので、それなのかも知れません。入院初日から集中内観が始まりました。初めは反抗的だったようですが、自分の過去を振り返った時、なんとなく母が私を入院させざるを得なかった気持ちが分かったような気がしました。この集中内観を通して、いかに自分が勝手、わがまま、無反省であったかを思い知らされました。入院3ヶ月の間で先生や職員皆さんの力を借りて、何とか人並みの生活が出来るようにして頂いたと感謝しています。

現在は太田病院のデイケアに通っています。ギャンブル依存症はもちろんのこと、強迫性障害、対人恐怖症、社会不安障害、人格障害、異常な金銭感覚、衝動買い、そして恋愛依存を一日も早く治して社会復帰したいと思っています。退院して三ヶ月経ちましたが現在も完全にはスロットを止められていません。そんな自分ですが、これからも札幌GFの力を借りて少しでも早く『断ギャンブル』を目標に頑張っていきたいと思っています。